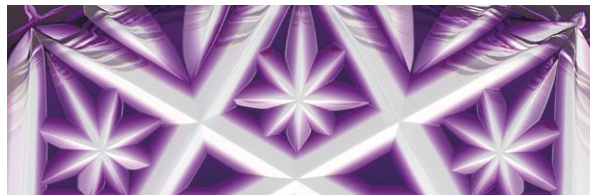


時の流れを刻むクロック

悠久の時の流れをテーマとしデザインされた切子の文様は、時を意味する“12”“24”の数字で構成されています。“12”の時はダイナミックな“24”の矢来で表現し、矢来の間には“12”個の菊文と笹の葉、文字板の中心には“24”弁の菊文が花開きます。側面の二重矢来の中には、“12”の十六菊文と海面に光り輝く小魚の群れを表現した“24”の魚子文が贅沢にあしらわれています。



矢来 (やらい) 菊文 (きくもん) 笹の葉 (ささのは) 魚子文 (ななこもん)

薩摩切子と共鳴するスタイリングの時分針

薩摩切子の誕生と同じ19世紀に端を発するスタイリングデザインを基調とした時分針。真鍮を酸化腐食(エッチング)加工して仕上げられた時分針は、切子細工の伝統文様である八角籠目(はっかくかごめ)や幾何模様を緻密なレリーフであしらい、宝飾時計にふさわしい端正な表情を演出します。また、分針飾りは情熱の意味を持つ「ガーネット」を使用しています。



RHG-S85 薩摩切子時計

¥1,650,000 (税込)
(税抜価格 ¥1,500,000)

| 日本製 |

4SG800HG12

※受注生産

配 色 紫色薩摩切子
材 質 ガラス枠・木(台座)
サ イ ズ 約 207×190×140mm
質 量 約 1.9kg

機 構 クォーツ時計 | 2 針式
特 記 事 項 薩摩切子細工ガラス使用 |
木製台座付属

電 池 単 3 アルカリ乾電池 1 本使用



※時計のサイズ、質量は念座を含んだ値です。
※切子の製品は、職人による手作業によって作られた工芸品のため、色や柄、サイズ、質量に個体差が生じます。
※受注からお渡しまで5ヶ月の製作時間をいただきます。詳しくは全国百貨店、時計専門店にお問い合わせください。

桐箱・名入のご案内

大切な方への贈り物に、名入(文字入れ)ギフトはいかがでしょう？本製品の桐箱に手書きで名入をする事で、より思い出に残る特別なプレゼントを贈ることができます。

桐箱イメージ

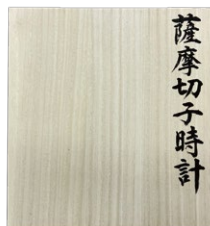
本製品は桐箱を真田紐で結び、お届けいたします。



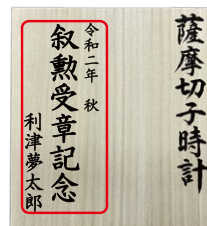
桐箱と真田紐(紫色)

名入イメージ

名入れは桐箱蓋天面左側のスペースです。手書き楷書にて名入いたします。



桐箱蓋天面



名入イメージ(天面)

●常温での時間精度:平均月差±20秒以内 ●サイズは縦(高さ)×横(幅)×奥行き(厚さ)です。
●表記されているサイズは設計値になります。●時計の質量は実際の重さと多少異なるものもあります。
●商品本体の質量は電池を入れた状態です。●商品のデザイン・材質・質量・機械・操作部品などの仕様は改良のため変更となることがありますのでご了承ください。●生産時期により表記されている生産国と異なる場合がございます。予めご了承ください。●乾電池が付属されている場合、付属の乾電池は動作確認のためのお試し用です。工場出荷時に同梱しているため、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。表記している電池寿命は、新たに「製品仕様より短い期間で電池切れになる場合の適用となります。●印刷物ですので時計の色は実際のものとは多少異なります。●写真はイメージです。●掲載商品については品切れの場合もありますのでお済みおきください。●このカタログの内容は2020年6月現在のものです。



ご注意

商品は不安定な場所に置かないでください。倒れたり、落下する恐れがあります。



詳しくはこちら
特設サイト

2020年6月発行

薩摩切子時計リーフレット / 1 冊



CA20Y855CA



製造
発元

リズム時計工業株式会社

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299-12

お客様相談室 0120-557-005

(土日祝祭日および当社休日を除く9:00~17:00)

リズム時計

検索

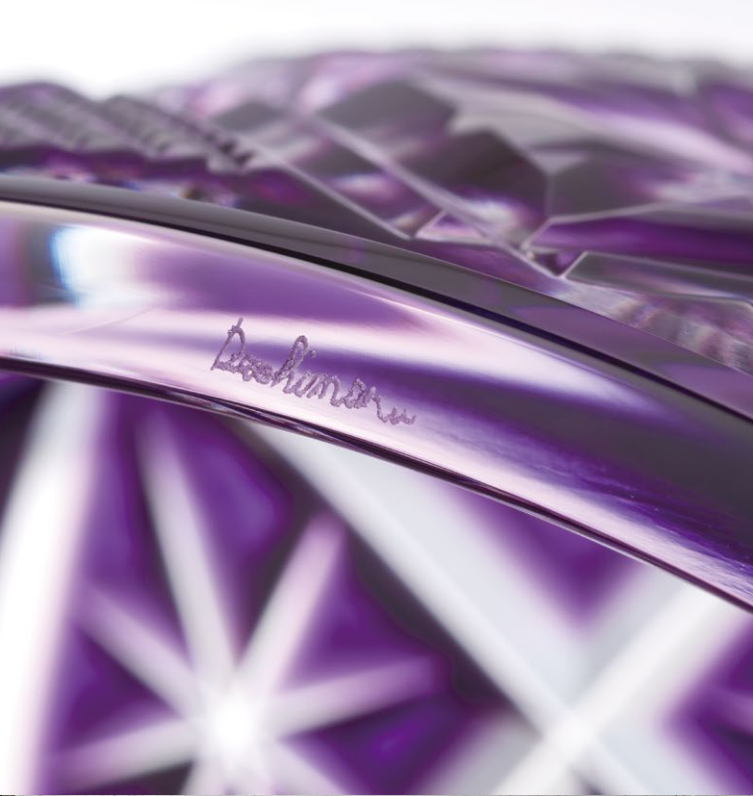


弟子丸

RHYTHM

DESHIMARU × RHYTHM CLOCK CATALOGUE





現代に蘇った至高の工芸 薩摩切子

今からおよそ180年ほど昔、島津家第28代 島津斉彬(しまづなりあきら)公の時代に海外交易品として誕生した薩摩切子。幕末の動乱の中で途絶えましたが、1985年、多くの人々の努力が実り、ついに現代に蘇りました。イギリス、ボヘミア、中国に源流を求めながらも、肉厚な色付きガラスを加工した際に生じる日本人的な繊細さを表現した「ぼかし」などの特徴によって世界のガラス工芸史上で高い評価を得ています。



弟子丸

炉火純青 -ろかじゅんせい-

1985年の薩摩切子復元事業の当初から携わっている切子師「弟子丸 努(でしまる つとむ)」氏が率いる”美の匠 ガラス工房 弟子丸”。その技法を際限なく高め、創作を通じ「炉火純青」と称される最高点の煌めきを追求し続けています。

一方で新しい薩摩切子の可能性を求め、伝統を踏まえつつも従来とちがわれない作品作りにも挑戦しています。